

平成19年度 荒川せらばん体操後期日程表

会場・住所 曜日・時間		10月	11月	12月	1月	2月	3月						
南千住地区	荒川ふるさと文化館 (南千住図書館) 地下 視覚覚醒 研修室 南千住6-63-1 TEL (3807) 9234 毎週火曜日 10時~11時30分	火 2 16 23 30	火 6 13 20 27	火 4 11 18	火 8 22 29	火 5 19 26	火 4 11 18						
	汗入ふれあい館 2階 多目的室 南千住8-2-2 TEL (3806) 9928 毎週金曜日 午後1時30分~3時	金 5 12 19 26	金 2 9 16 30	金 7 14 21	金 11 18 25	金 1 8 15 22 29	金 7 14 21						
日暮里地区	旧真土小学校 3階 体育館 西日暮里1-6-8 毎週水曜日、金曜日 10時~11時30分	水 3 10 17 24 31	金 5 12 19 26	水 7 14 21 28	金 2 9 16 30	水 5 12 19 30	金 7 14 21	水 9 16 23 30	金 11 18 25	水 6 13 20 27	金 8 15 22 29	水 5 12 19	金 7 14 21
	日暮里ひろば館 3階 301会議室 西日暮里2-10-9 TEL (3801) 7208 毎週水曜日 10時~11時30分	水 3 10 17 24 31	水 7 14 21 28	水 5 12 19	水 9 16 23 30	水 6 13 20 27	水 5 12 19						
日暮里地区	旧道灌山中学校 2階 体育館 西日暮里5-37-5 毎週火曜日、金曜日 10時~11時30分	火 2 9 16 23 30	金 5 12 19 26	火 6 13 20 27	金 2 9 16 30	火 4 11 18 29	金 7 14 21	火 8 15 22 29	金 11 18 25	火 5 12 19 26	金 8 15 22 29	火 4 11 18	金 7 14 21
	東日暮里ふれあい館 1階 洋室1・2 東日暮里1-17-13 TEL (3807) 6383 毎週月曜日 午前10時~11時30分	月 1 15 22 29	月 5 12 19 26	月 3 10 17	月 7 21 28	月 4 18 25	月 3 10 17						
日暮里地区	東日暮里三丁目ひろば館 3階 多目的室 東日暮里3-8-16 TEL (3805) 6124 毎週木曜日 午後1時30分~3時	木 4 11 18 25	木 1 8 15 22 29	木 6 13 20	木 10 17 24 31	木 7 14 21 28	木 6 13						

★印のある会場は荒川せらばん体操も同時に行なっています。

◎年末年始 3月末と4月初め ゴールデンウィーク お盆 はお休みになります。

◎台風や雪の日は体操はお休みです。

高齢者保健サービス係に確認してください。

問い合わせ 福祉高齢者課高齢者保健サービス係 (3802)3111内線2662

平成19年度 荒川ころぼん体操後期日程表

19.2作成

会場・住所 曜日・時間		10月	11月	12月	1月	2月	3月						
尾久地区	宮の前ひろば館 2階 会議室 東尾久5-45-11 ㊟(3800)1870 毎週木曜日 10時~11時30分	木 4 18 25	木 1 8 15 22 29	木 6 13 20	木 10 17 24 31	木 7 14 21 28	木 6 13						
	首都大学東京 荒川キャンパス (旧国立保健科学大学) 体育館 東尾久7-2-10 毎週火曜日、木曜日 10時~11時30分	火 2 9 16 23 30	木 4 18 25	火 6 13 20 27	木 1 8 15 22 29	火 4 11 18 25 29	木 6 13 20 24 31	火 5 12 19	木 7 14 21 28	火 4 11 18	木 6 13		
	旧小台橋小学校 2階 体育館 西尾久6-9-7 毎週月曜日、金曜日 10時~11時30分	月 1 15 22 29	金 5 12 19 26	月 5 12 19 26	金 2 9 16 30	月 3 10 17	金 7 14 21	月 7 21 28	金 11 18 25	月 4 18 25	金 1 8 15 22 29	月 3 10 17	金 7 14 21
	徳愛のぞみの郷 5階 多目的室 西尾久1-1-12 ㊟(3893)3555 毎週水曜日、土曜日 10時~11時30分	水 3 10 17 24 31	土 6 20 27	水 7 14 21 28	土 24	水 5 12 19 22	土 8 22	水 9 16 23 30	土 19 26	水 6 13 20 27	土 2 16 23	水 5 12 19	土 8 22
	西尾久ふれあい館 3階 多目的室 西尾久8-33-31 ㊟(3810)6219 毎週月曜日 10時~11時 毎週水曜日 10時~11時30分	月 1 15 22 29	水 3 10 17 24 31	月 5 12 19 26	水 7 14 21 28	月 3 10 17	水 5 12 19	月 7 21 28	水 9 16 23 30	月 4 18 25	水 6 13 20 27	月 3 10 17	水 5 12 19

★ 印のある会場は荒川せらばん体操も同時に行なっています。

※このほか次の会場でも行っています。詳しくは各会場にお問合わせください。
 東尾久3丁目ひろば館 ㊟(3895)3448、荒川生協診療所 ㊟(3802)3524、
 荒川区シルバー人材センター ㊟(3810)1141、荒川老人福祉センター 下記。

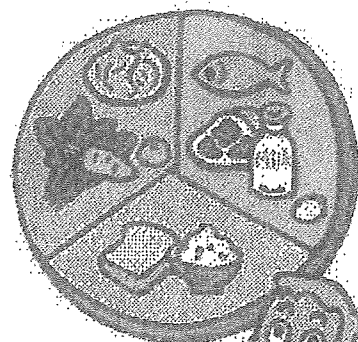
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
荒川老人福祉センター 4階 会議室 荒川1-34-6 ㊟(3802)1666 毎週月曜日 1時~2時30分 60歳以上で老人福祉センターの利用登録をしている方のみ。	月 1 15 22 29	月 12 19 26	月 3 10 17	月 7 21 28	月 4 18 25	月 3 10 17 24 31

- ◎年末年始 3月末と4月初め ゴールデンウィーク お盆 はお休みになります。
- ◎台風や雪の日は体操はお休みです。
 高齢者保健サービス係に確認してください。





問合わせ 福祉高齢者課高齢者保健サービス係 (3802)3111内線2662

日暮里の!

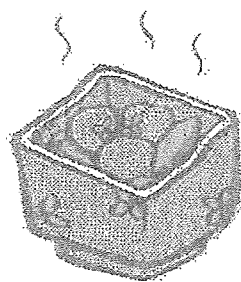
はつらつ 栄養講座



健康のためには「粗食が大事」と思っていないませんか？
偏った食生活で低栄養になってしまっていることがあります。
是非この機会に「低栄養を防いで、老化を遅らせる食生活」を学びましょう。

日程	内 容	講師
平成20年 2月13日 水曜日 午後2～4時	 高齢者のための食生活 あなたの栄養チェック  お口の健康と歯つらつ体操 口の中の手入れ	栄養士 歯科衛生士
2月29日 金曜日 午後2～4時	 実際にやってみましょう 栄養バランス調べ  簡単調理の実演と試食	栄養士

場 所 西日暮里在宅高齢者通所サービスセンター1階食堂
荒川区西日暮里5-36-1 (地図は裏面)
対 象 高齢者の食生活に関心がある高齢者20名
賞 用 無料



申込み・問合せ

福祉高齢者課 高齢者保健サービス係
電話 3802-3111 内線2662

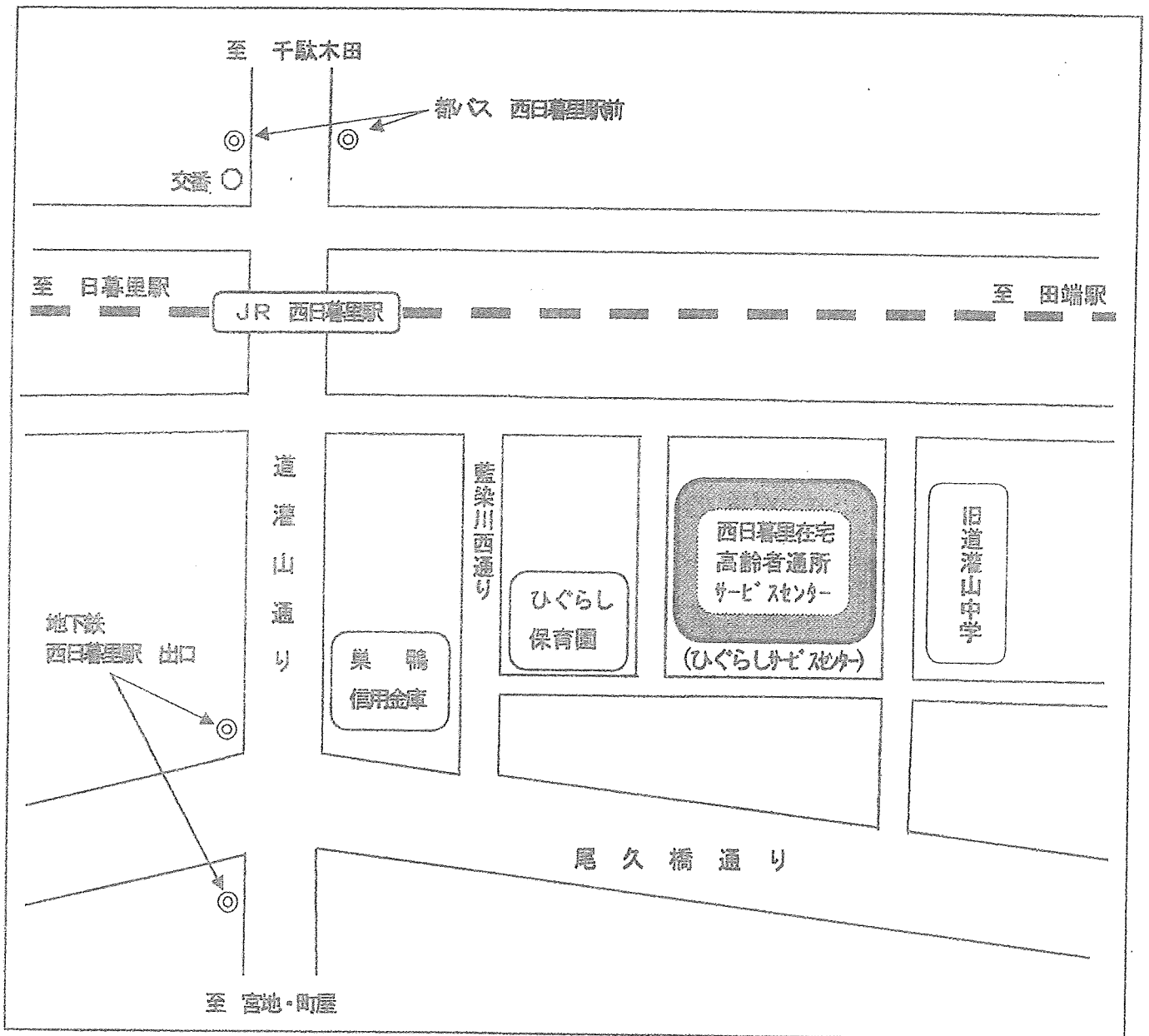
 日暮里地域包括支援センター
電話 3807-3828

西日暮里在宅高齢者通所サービスセンター

(ひぐらしサービスセンター) 案内図

所在地：荒川区西日暮里5-36-1

☎：03-3807-9134

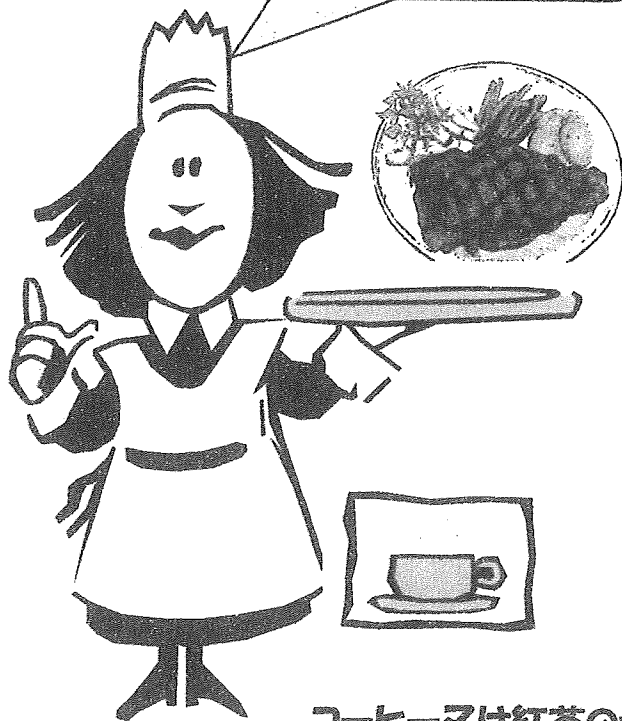




森食サービス

グリーンハイム荒川では、地域の皆様にお昼のお食事を御提供させていただいております。老人施設の管理栄養士の献立による栄養バランスのとれた温かいお食事を用意して皆様のお越しをお待ちしております。なお勝手ではございますが概ね60歳以上の方を対象にさせていただいております。
(詳細は職員までお問い合わせください。)

お友達やご夫婦誘い合
わせてランチに来てね！
おいしいお食事用意してま
ってま〜す。



値段 600円

時間 12時30分〜

場所 グリーンハイム荒川

1階食堂

申し込みはさいとう ますぶち齊藤・増湊まで
3802-7561

予約は1週間前までにお受けいた
します。

御利用には、会員登録が必要で
す。

(日・祭日は休み)

コーヒースは紅茶のサービスがあります

おたっしやランチ尾久小

バランスのとれた学校給食と楽しいひと時で、あなたの健康づくりをお手伝いします。

☆日 時 毎週木曜日（学校の行事により変更があります）

午前11時30分～午後1時

☆場 所 尾久小学校 1階 第2多目的室

（荒川区東尾久5-6-7）

☆内 容 学校給食 健康体操 お話や歌など

☆持ち物 上履き 手拭きタオル 食事代300円 参加証

☆利用できる方

- ①学校までの往復を自力でできる方
- ②ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の方
- ③外出の機会が少ない方
- ④介護保険サービスを利用していない方 など

9月28日(木)より
始まります。

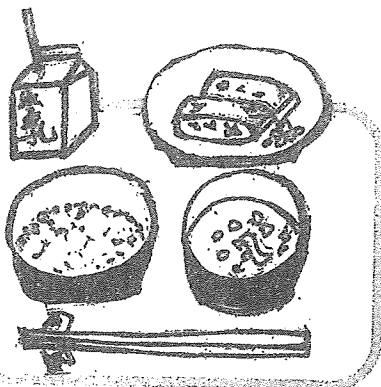
※見学希望の場合は下記までご連絡ください

【申し込み・問合わせ】福祉高齢者課 高齢者保健サービス係

電話 3802-3111内線2672

尾久地域包括支援センター

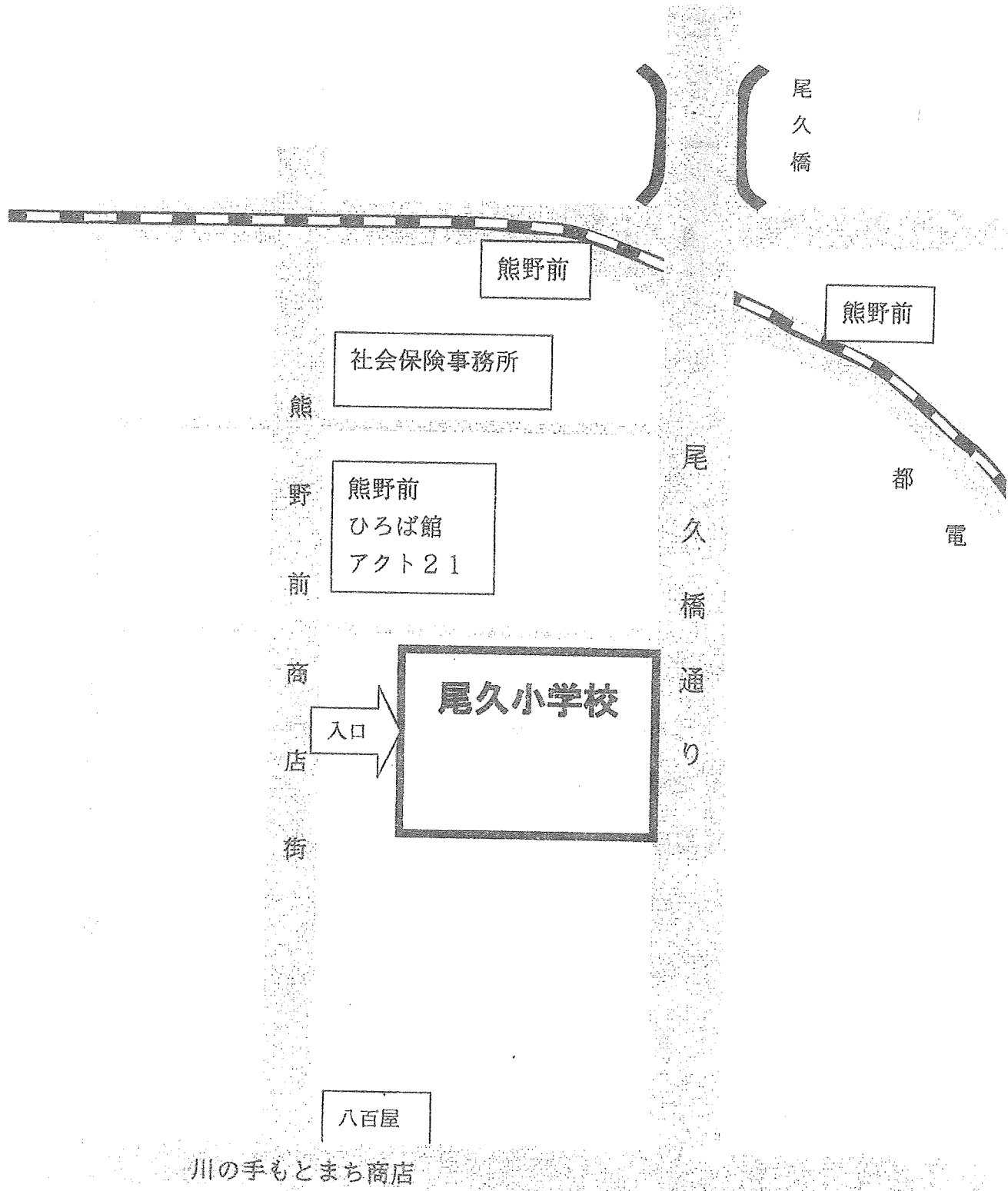
電話 3893-3555



学校敷地内は禁煙です

案内図は裏面をご覧ください

尾久小学校案内



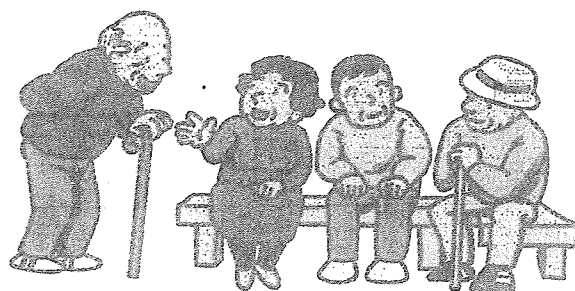
- ・体調の悪い時は無理をせずお休みください。
- ・欠席の時は、下記までご連絡ください。
- ・学校内は禁煙です。

連絡先
南千住
地域包括支援センター
電話(3805)5702

荒川区福祉高齢者課
電話(3802)3111
内線2662

おたっしゃランチ 参加証

<平成19年9月～平成20年3月>



会場 おたっしゃランチ六瑞

氏名

☆食べ切れなくても、牛乳などの給食の持ち帰りはありません



食事代 300円

手拭きタオル

持ち物 上靴

時間 午前11時30分から

1階 家庭科室

場所 第六瑞光小学校

お手伝いします。

軽い体操で、健康づくりを

バスのとれた学校給食と

おたっしゃランチは

実施時間

11時15分 受け付け

11時30分 開始

話し合い・歌・ゲーム・体操

12時10分 手洗い、配膳

12時20分～12時50分 食事

12時50分 次回の案内

13時 終了

おたっしやランチ六瑞

六瑞小学校 定例金曜日

回数	日程	曜日	参加
1	9月28日	金	
2	10月5日	金	
3	10月19日	金	
4	10月26日	金	会食会 6年

回数	日程	曜日	参加
5	11月2日	金	
6	11月9日	金	
7	11月16日	金	
8	11月30日	金	会食会 5年1組
9	12月7日	金	
10	12月14日	金	会食会 5年2組

回数	日程	曜日	参加
11	1月11日	金	
12	1月18日	金	
13	1月25日	金	会食会 すずらん1
14	2月1日	金	
15	2月8日	金	
16	2月15日	金	
17	2月22日	金	
18	2月29日	金	会食会 すずらん2
19	3月7日	金	
20	3月14日	金	会食会 4年

元気に過ごす食生活 七ヶ条

- 1 動物性たんぱく質を十分とる
- 2 肉と魚は同じ割合でとる
- 3 三食を栄養バランスよくとる
- 4 牛乳は毎日200ml以上
- 5 野菜は一日、手のひら一杯
- 6 おかずを先に食べる
- 7 食後、
歯と歯ぐきのお手入れ



おげんきランチ 東日暮里

バランスのとれたお食事と軽い体操で、
健康づくりをお手伝いします。

- ☆ 日 時 毎週木曜日（祝祭日を除く）
午前11時～午後1時
- ☆ 場 所 東日暮里サービスセンター 1F フロアー
（荒川区東日暮里3-8-16）
- ☆ 内 容 話合い・歌・ゲーム・体操など
- ☆ 持 ち 物 *手拭タオル
*食事代600円（参加当日に次回分を頂きます）

※動きやすい服装と運動靴でおいで下さい。

☆ 利用できる方

- ①施設まで自力で往復出来る方
- ②ひとり暮らし高齢者
- ③高齢者のみの世帯
- ④通所サービスを利用されていない方
- ⑤外出の機会が少ない方 など

※見学希望の場合は下記までご連絡ください。

【申し込み・問合せ】

東日暮里サービスセンター

電話 3805-6121

日暮里地域包括支援センター

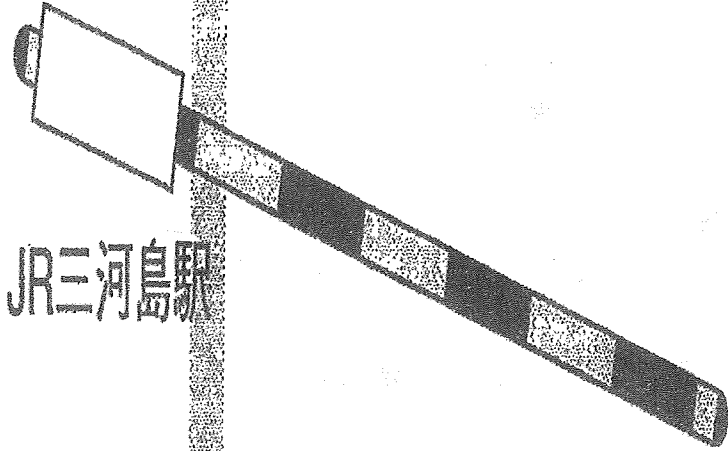
電話 3807-3828



デイサービスセンター施設内は禁煙です
案内図は裏面をご覧ください

案内図

至上野



JR三河島駅

栗竹橋通り

東日暮里

サ-ビスセ-ター

日暮里公園

かんかん森通り

第二日暮里小学校

東日暮里幼稚園

日暮里中央通り

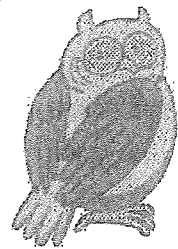
認知症を知る講演会

認知症はどのような病気なのかを知るための講座と
認知症の方への対応について学ぶ講座です。

平成20年 2月1日(金) 午後2時～4時

「認知症に気づいたら」

～診断・症状・治療～



講師 今井幸充先生(認知症介護研究研修センター副所長・

日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科)

会場 サンパール荒川 第2・3集会室

平成20年 2月14日(木) 午後2時～4時

「誰かそばにいてだけで」

演劇 認知症サポーター・劇団あら笑座

「認知症の方への接し方」

～家族、友人としてできること～

講師 松村美枝子先生(看護師・介護支援専門員)

会場 サンパール荒川 第2・3集会室

費用：無料

対象：区内在住・在勤の方 80名(申し込み順)

★2月1日または、2月14日のみの出席も受け付けています。

【申込み・問合せ】 荒川区福祉高齢者課 高齢者保健サービス係

電話 3802-3111 内線2662

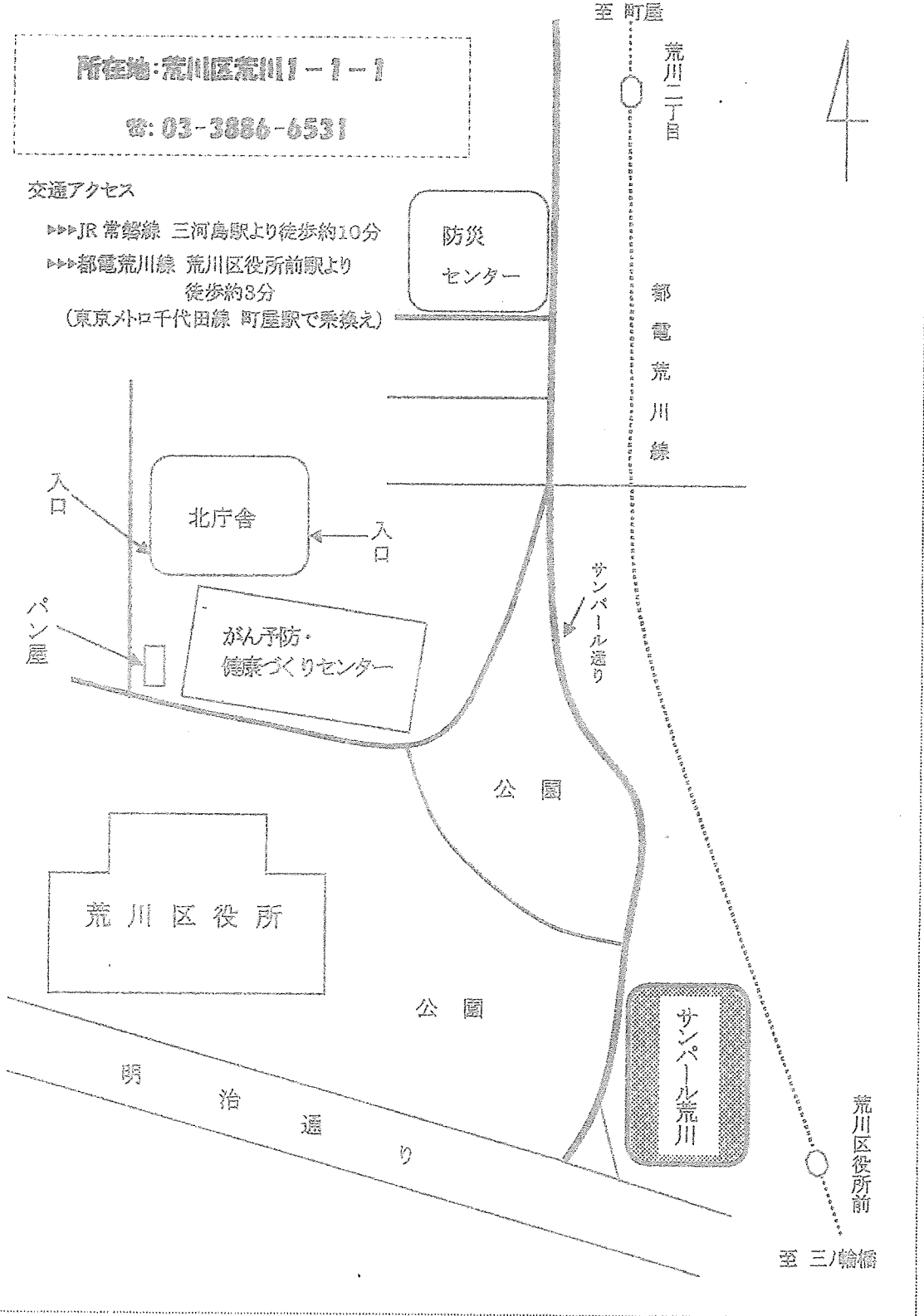
サンパール荒川案内図

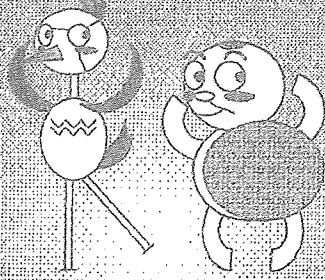
所在地: 荒川区荒川1-1-1

☎: 03-3886-6531

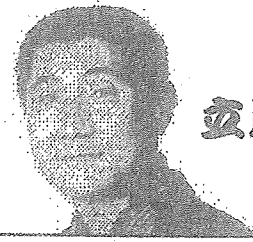
交通アクセス

- ▶▶▶ JR 常磐線 三河島駅より徒歩約10分
- ▶▶▶ 都電荒川線 荒川区役所前駅より徒歩約3分
(東京メトロ千代田線 町屋駅で乗換え)





荒川区



相川 謙季 氏

「^{わーわーわー}広がれ体操の和・輪・環」

転倒予防体操交流会in荒川

平成20年1月29日(火)

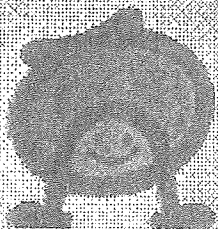
午後1時～4時 受付12時30分～

日暮里廿二一ホール (地図は裏面参照)

定員150名申込み順 費用無料

健康落語 相川 謙季 氏
参加団体による体操・実演・交流

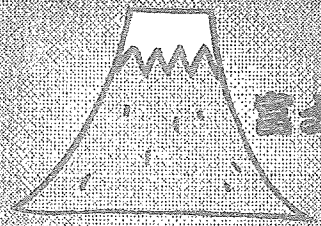
大尾市



牛久市



富士見市



申込・問合せ

荒川区福祉部福祉高齢者課

電話 03-3802-3111 内線 2662

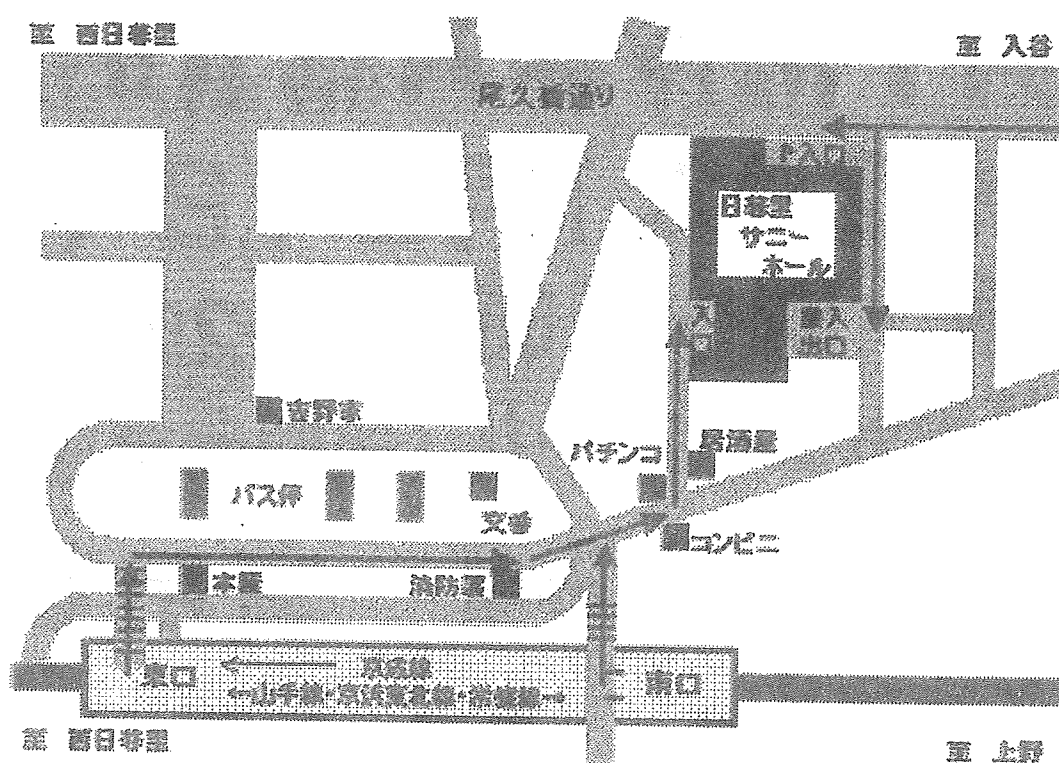
動きやすい服装でおいでください

● 会場

日暮里サニーホール ホテルラングウッド4階

東京都荒川区東日暮里5-50-5

電話:03-3807-3211 FAX:03-3807-4190



JR・京成 日暮里駅前より徒歩約2分です。

● 駐輪場はありませんので、自転車での来場はご遠慮ください。

V. 研究成果の刊行物・別刷

都市部在住高齢者における閉じこもりの出現率および 住環境を主とした関連要因

山崎幸子*1, 橋本美芽*2, 藺牟田洋美*2, 繁田雅弘*2,
芳賀 博*3, 安村誠司*4

抄録

都市部に在住する高齢者を対象に、閉じこもりの出現率および住環境を主とした閉じこもりの関連要因を明らかにすることを目的とした。閉じこもりの定義は「外出頻度が週1回未満」とした。東京都内A区在住の65歳以上高齢者39,405人から無作為法により1万人を抽出し、郵送調査を実施した。分析対象者は要介護認定者を除く3,592人であった。分析の結果、閉じこもりの出現率は8.0%（男性9.6%、女性6.8%）であった。多重ロジスティック回帰分析の結果、男女共に、生活体力指標（低い）、自己効力感（低い）との関連が認められた。さらに男性では、昼間和室で過ごす、寝室と玄関が同一階にない、との関連が認められた。先行研究と比して、閉じこもりの出現率は低い状況であったが、調査応答者のかたよりの影響が示唆された。和室での生活が主であるといった住環境と閉じこもりの関連が男性のみで示された。

Key words : 閉じこもり, 外出頻度, 介護予防, 地域高齢者, 住環境

老年社会科学, 30(1): 58-68, 2008

I. 緒 言

厚生労働省は、2006年4月から介護保険制度の一環として、市町村を主体とした地域支援事業における介護予防を開始した。本事業のひとつとして閉じこもり予防・支援が挙げられており¹⁾、閉じこもりに関連する要因を明らかにし、さらには有効な予防・支援方法を開発することが求められている。

高齢者の閉じこもりは、竹内²⁾が「閉じこもり症候群」として提唱したのが始まりであり、閉じこもりの状態は、活動水準の低下を引き起こし寝たきりにつながるとされ、追跡調査においても実証されている³⁻⁶⁾。これまでに閉じこもりの定義

およびとらえ方に関する検討や、関連要因を主とした実証研究が進められてきた。先行研究における閉じこもりの定義を概観すると、閉じこもりを「家に閉じこもった状態」とし、総合的移動能力³⁾や、外出頻度^{7, 8)}でとらえるものと、外出頻度や生活行動範囲で定義される「家から出ない状態」にある閉じこもりをさらに細分化するために移動能力^{4, 9, 10)}や交流頻度^{11, 12)}を加えた組み合わせによる定義に大別される。このように、閉じこもりの定義は各研究者により異なり、さまざまなアプローチが検討されてきたが、今回の介護保険制度の改正では外出頻度による定義が採用されている¹³⁾。

これまでに閉じこもりとの関連要因を検討した先行研究から、身体的要因では、歩行能力の低下⁴⁾、心疾患の既往歴³⁾、日常生活自立度の低下³⁾、認知機能の低下⁴⁾などが指摘されている。心理的要因では、ADLに対する自己効力感の低さ¹⁴⁾、転倒不安による外出制限があること⁸⁾、主観的健康

受付日：2007.10.20 / 受理日：2008.2.20

*1 Sachiko Yamazaki : 早稲田大学大学院人間科学研究科

*2 Mime Hashimoto, Hiromi Imuta, Masahiro Shigeta : 首都大学東京健康福祉学部

*3 Hiroshi Haga : 桜美林大学大学院

*4 Seiji Yasumura : 福島県立医科大学医学部

*1 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15-521

感の低さ¹⁵⁾、抑うつ傾向⁴⁾などが関連することが明らかにされ、社会・環境要因では、近所との付き合いの少なさ¹⁵⁾、集団活動への不参加¹⁵⁾、ソーシャル・ネットワークの低さ⁷⁾などが報告されている。身体的要因や心理的要因については知見が蓄積されつつあるが、社会・環境要因については、そのうちのひとつとして重視されている住環境要因（部屋の位置関係や段差、家屋構造や居住習慣など）に関する検討は極めて少なく^{8, 11, 16, 17)}、このうち、関連が報告されたものは居住階、周辺環境の問題数^{8, 11, 16)}のみであり、家屋構造や居住習慣についての検討には至っていない。閉じこもりは身体、心理、社会・環境要因が相互に関連しあってもたらされるライフスタイルと考えられており²⁾、家屋構造や居住習慣などの住環境要因について、身体、心理的要因とともに解明することは、複雑な閉じこもり状態への理解を促し、ひいては、有効な予防・支援方法の開発によって今後の効率的な介護予防事業の推進に資すると考えられる。

先行研究は、そのほとんどの対象地区が農村部などを含む非都市部であり、都市部高齢者の代表サンプルを対象とした研究は数少なく^{11, 16, 18)}、あっても外出目的や移動手段などの外出に関する特徴についての検討はなされていない。しかし、人口構成や都市部であるか非都市部であるか、といった地域特性による閉じこもりの出現率の地域差も示唆され⁹⁾、買い物や交通の便がよく、住宅が密集している都市部では、閉じこもりの出現率や外出の特徴、関連要因などに非都市部との違いが認められる可能性があり、都市部における閉じこもりの知見の蓄積が必要である。さらに先行研究では、男女別に関連要因を検討したものはほとんど見受けられないが、閉じこもりの出現率には、女性のほうが多いとする性差が一部で報告されている¹⁰⁾。わが国の女性は男性と比して平均寿命が長いことから、この知見が、女性が高齢であるため結果として女性に閉じこもりが多くなっているのか、あるいは背景要因の違いによるものなのか

について明らかにするために、男女別に関連要因を検討する必要がある。

そこで本研究では、都市部である東京都A区に在住する高齢者を対象に、閉じこもりの出現率と外出に関する特徴ならびに住環境を主とした閉じこもりの関連要因を男女別に明らかにすることを目的とした。なお本研究では、閉じこもりから要介護状態にならないようにするという介護予防の観点から、閉じこもりの定義を「家に閉じこもっている状態」と広くとらえ、地域支援事業で閉じこもりの判定に用いる基本チェックリスト¹⁾と同様に「外出頻度が週1回未満^{7, 14)}」とした。調査対象者は、地域支援事業と同様な対象とするため、介護認定で「要支援」「要介護」と判定された人（以下、要介護認定者）を除く地域高齢者に限定した。したがって本研究における閉じこもりの出現率および関連要因は、地域支援事業の対象者に限定される。

II. 研究方法

1. 調査対象地区の特徴

調査対象のA区は、東京都23区の東北部に位置し、中小工場と住宅が混在する住宅密集地域で、JR、私鉄、都電が走り、交通面で恵まれた環境にある。総面積10.20km²、広さは23区中21番目であり、区内大部分がほとんど起伏なく平地である。2006年6月1日時点の住民基本台帳によれば、総人口が178,326人、高齢化率は22.0%である。

2. 対象者と調査方法

2006年6月1日時点で、住民基本台帳に記載された東京都A区の65歳以上高齢者39,405人から、10,000人（男性4,568人、女性5,432人）を単純無作為法により抽出し、郵送法によるアンケート調査を実施した。調査期間は2006年7月5～20日であった。

3. 調査項目

対象者の性別、年齢、世帯構成などの基本属性

に加えて、要介護認定の有無および介護度、外出に関する項目、身体的要因、心理的要因、住環境に関する項目について質問した。①閉じこもりの基準は、外出頻度を用いた。外出頻度については、「あなたはどのくらいの回数で外出しますか（隣近所へ行く、買い物、通院なども含みます）」の質問に対し、「週に1回以上は外出する／月1～3回は外出する／ほとんど、または、まったく外出しない」で回答を求めた。「月1～3回」と「ほとんど外出しない」を合わせて「週1回未満」とし、これらを閉じこもりとした^{7,14)}。②外出に関する項目として、外出の目的、外出時に使用する交通手段について質問した。外出の目的は、普段の外出目的について、通院、散歩、孫の世話や買い物などの10項目の有無について複数回答を求めた。外出時に使用する交通手段は、普段外出時に使用する交通手段や補助具について、電車やバス、自転車、杖の使用など10項目の有無について複数回答を求めた。③身体的要因として、生活体力、体の痛みの有無、痛みのある箇所、転倒経験、転倒理由について質問した。生活体力は、Kinugasaら²⁰⁾によるMotor Fitness Scale（以下、生活体力指標）を用いた。14項目について「はい/いいえ」の回答を求め、分析では「はい」の合計数を用いた。痛みの有無は、痛みありと回答した人に対し痛みの箇所の有無を求めた。転倒の有無は、この1年間の転倒経験がありと回答した人に対し、つまづいた、滑ったなどの転倒理由7項目の有無を求めた。④心理的要因として、動作に対する自己効力感（以下、自己効力感）、健康度自己評価について質問した。自己効力感尺度²¹⁾は、6項目、4件法「まったく自信がない～たいへん自信がある」による。分析では回答に1点から4点を配点し、合計得点を用いた。健康度自己評価は「非常に健康だと思う／まあ健康だと思う／あまり健康ではない／健康ではない」の4件法により回答を求め、前者2つを「健康」、後者2つを「健康でない」にカテゴリー化した。⑤住環境に関する項目は、これまでに検討された範囲に

とらわれず住環境の特徴を把握するため、家屋構造（部屋の位置関係や段差）と居住習慣（部屋での過ごし方や生活様式）に関する項目を用いた。家屋構造では、部屋の位置関係について「寝室と玄関が同じ階にある」「昼間主に過ごす部屋は和室（洋室）である」「寝室は和室（洋室）である」について「はい/いいえ」で回答を求めた。玄関の段差の高さについて「玄関の段差（上がりかまち）は高いと思うか」「玄関の外に段差がある」「玄関の外に階段がある」について「はい/いいえ」で回答を求め、「玄関の段差（上がりかまち）は手のひらの長さ（約15 cm）と比べて」については「高い/だいたい同じ/低い」で回答を求めた。居住習慣では、「昼夜過ごす部屋が同じである」「使用している寝具が布団（ベッド）である」について「はい/いいえ」で回答を求め、「普段長く座る場所」「食事時に座る場所」「使用している寝具」については「床に座布団敷き/座椅子/椅子/ソファ」のなかから該当するものの回答を求めた。

4. 分析方法

外出頻度によって分けられた閉じこもり群と非閉じこもり群の間で、外出に関する項目、身体的要因、心理的要因、住環境に関する項目について有意差がみられるかを分析した。差の検定には、 χ^2 検定、Mann-WhitneyのU検定を用いた。次に、身体的要因、心理的要因、住環境に関する項目について有意な関連が認められた項目を説明変数とし、年齢を統制した多重ロジスティック回帰分析を実施した。なお、性差を考慮し、すべての解析を男女別に実施した。

解析はすべて、統計パッケージSPSS 15.0J for Windowsを用いて行った。統計学的な有意水準は5%とした。

5. 倫理面での配慮

調査を行うにあたり、東京都A区個人情報審議会および首都大学東京研究倫理委員会の承認を得

た。対象者には、調査の趣旨、調査への協力が任意であること、匿名性を保持することを記した調査依頼を添付し、調査票への返送をもって調査への同意とみなした。

Ⅲ. 結 果

1. 分析対象者

調査回収数は4,538人(回収率45.4%)であった。性別、年齢、外出頻度のいずれかが未回答であった462人を除外した結果、有効回答数は4,076人(男性1,895人、女性2,446人;有効回答率40.8%)であった。これらの有効回答数のうち、入院74人、入所中45人、長期不在12人、転出7人、死亡5人、その他(拒否・認知症など)69人および要介護認定者247人、介護認定の有無について未記入であった25人の計272人を除いた3,592人(男性1,589人、女性2,003人)を分析対象者とした。年齢の分布は、前期高齢者3,166人(分析対象者に占める割合;88.1%)、後期高齢者373人(10.4%)、85歳以上の超高齢者では53人(1.5%)であった。性別では、男性は、前期高齢者1,404人(88.4%)、後期高齢者161人(10.1%)、超高齢者24人(1.5%)、女性では前期高齢者1,762人(88.0%)、後期高齢者212人(10.6%)、超高齢者29人(1.4%)であった。

2. 閉じこもりの出現率

外出頻度(週1回以上の外出)によって対象者を分類したところ、閉じこもり289人、非閉じこもり3,303人であった。外出頻度の分布と閉じこもりの出現率を表1に記した。閉じこもりの出現率は8.0%(95%信頼区間0.07-0.09)であった。性別では、男性が9.6%(95%信頼区間0.08-0.11)、女性が6.8%(95%信頼区間0.06-0.08)であり、男性のほうが有意に高かった。年代別では、前期高齢者では、男性が9.3%(95%信頼区間0.08-0.11)、女性が5.5%(95%信頼区間0.04-0.18)であり、男性のほうが有意に高かった。

3. 閉じこもりの有無別の基本属性の比較

表2は対象者の基本属性を示したものである。男女共に、閉じこもりは年齢が高かった。世帯構成では閉じこもりと非閉じこもりに有意な差は認められなかった。

4. 閉じこもりの有無と外出に関する項目および、身体、心理的要因、住環境に関する項目の比較

閉じこもりと非閉じこもり間で外出に関する項目、身体的要因、心理的要因、住環境に関する項目を比較した。

1) 外出に関する項目(表3)

男女共に、閉じこもりは非閉じこもりと比して、

表1 調査応答者における年代、性別の外出頻度の分布と閉じこもりの出現率

	全体				前期高齢者				後期高齢者 ^{a)}			
	全体 (N=3,592)	男性 (N=1,589)	女性 (N=2,003)	検定	全体 (N=3,166)	男性 (N=1,404)	女性 (N=1,762)	検定	全体 (N=426)	男性 (N=185)	女性 (N=241)	検定
週1回以上	92.0 (3,303)	90.4 (1,436)	93.2 (1,867)		92.8 (2,939)	90.7 (1,274)	94.5 (1,665)		85.4 (364)	87.6 (162)	83.8 (202)	
月1~3回	7.0 (254)	8.2 (131)	6.1 (123)		6.5 (205)	8.3 (116)	5.1 (89)		11.5 (49)	8.1 (15)	14.1 (34)	
ほとんどない	1.0 (35)	1.4 (22)	0.6 (13)		0.7 (22)	1.0 (14)	0.5 (8)		3.1 (13)	4.3 (8)	2.1 (5)	
閉じこもり 出現率	8.0 (289)	9.6 (153)	6.8 (136)	**	7.2 (227)	9.3 (130)	5.6 (98)	***	14.6 (62)	12.4 (23)	16.2 (39)	†
95%CI 下限-上限	0.07-0.09	0.08-0.11	0.06-0.08		0.06-0.80	0.08-0.11	0.04-0.07		0.11-0.18	0.08-0.17	0.11-0.20	

*** $p < .001$ ** $p < .01$ † $p < .10$

検定は男女間で、 χ^2 検定による CI:信頼区間

a) 85歳以上の超高齢者は少数(N=53)であったため後期高齢者に含めた。

Nに占める%(実数)